

は し が き

原爆被災は二度とくり返されないためにも、その医学的な影響を調べておくことは後世にとって必要である。原爆被災は何をとっても呪われるべきかのようにみえるが、原爆被災の医学的解析から二つのことが明らかになった。一つは healthy worker effect (健康労働者効果) に類するもので、被爆者であるが故に非被爆者よりも死亡率が低いことである。これは被爆者が毎年健康診断を受けることによって、健康管理ができ疾患の早期発見ができるためと考えられる。もう一つは hormesis (ホルミシス) と言われるもので、被曝放射線量が無視できるほど少ない被爆者とくらべ、低線量を被曝した男性の被爆者の癌以外の死亡率が低いことと、寿命 (平均余命) が長いことである。この理由はまだ十分に説明できていないが、何か放射線が良い方に働いているのであろう。すでに明らかになっている原爆放射線による発癌という暗い面だけでなく、わずかではあるが明るい面があると原爆医学研究も新しい分野を開拓していることがわかる。

原爆被災学術資料センター長 奥村 寛